

東証スタンダード市場・福証
証券コード：6998

決算補足説明資料

2027年3月期（2026年度） 第1四半期決算概要

2026年8月5日



はじめに

当社商品の概要

2027年3月期（2026年度）第1四半期業績概要

1. 今回発表のポイント
2. 連結業績の概要
3. 主な経営指標
4. セグメント別の状況
5. 財務の状況（連結）
6. 今後の見通し

参考資料

1. 業績の推移（連結）
2. 配当金の推移

当社商品の概要

当社商品の概要

「粉末冶金技術」を駆使し、タングステンを軸に多様な特性を持つ高機能商品を創出

1930年代

1950年代

1980年代

2000年代

粉末冶金技術

タングステンに銅や銀を組み合わせ、**通電性や耐アーク性を備えた合金を開発**

熱に強いタングステンの特徴を用いた電球フィラメントが、当社の出発点

電気・電子製品

(タングステン製品)



ブレーカー用電気接点

金属材料製品

(タングステン製品)



電球用タングステンワイヤー製品

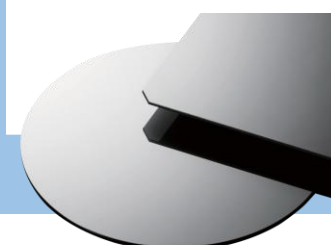
タングステンカーバイドとコバルト等を組み合わせ、**耐摩耗性や耐腐食性に優れた合金を開発**

超硬合金製品

(タングステンカーバイド合金)

セラミックス製品

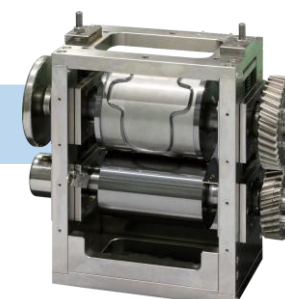
(セラミックス材料)



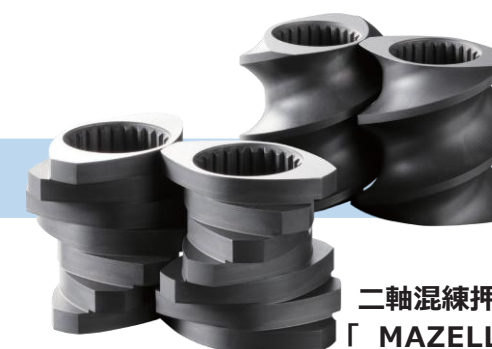
ハードディスクドライブ(HDD)用
磁気ヘッド基板

粉末冶金技術を生かし、タングステン以外のチタンやアルミニウム等からなる**緻密な**ファインセラミックスを開発

サーバー・クラウド



NTダイカッター



二軸混練押出機用部材
「MAZELLOY®」

サニタリー用品



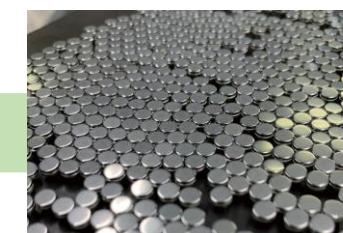
自動車の部品



カテーテル治療



プラズマ電極



EVリレー用接点



医療関連カテーテル用タングステンワイヤー製品



抵抗溶接用電極

様々な場面で暮らしを支える当社の製品

■ 半導体・電子部品市場

サーバーなどのハードディスクドライブの読み取り装置を支える基板や、「産業のコメ」といわれ、電子デバイスの基本材料となる半導体にも、その製造過程で当社の製品が使われている。



■ 衛生用品機器・医療用部品市場

カテーテル用のブレードチューブや電気手術用電極など、医療分野でも当社の製品が使われている。



皆様の健やかな生活を支える衛生用品の製造工程でも、当社の製品が使われている。



■ 自動車部品市場

先端技術を駆使した自動車の部品や、製造工程にも当社の製品が使われている。



■ 産業用機器・部品市場

より効率的な生産への改善や、安全面、環境面への管理に対し、信頼性の高い部品が求められています。高品質な材料を活かし、当社の様々な製品が この分野でも活躍している。



主要な商品を成長・コア事業領域に区分しターゲットとする4市場に展開

成長事業

事業成長を加速させ、新規市場を開拓
【リソースを投資】

産業用機器・部品市場

超モノづくり部品大賞「日本力(ぶらんど)賞」受賞
ものづくり日本大賞 優秀賞 受賞



二軸混練押出機用耐摩耗部品
マゼロイ

コア事業

収益基盤とキャッシュ創出を強化
【シェア拡大、サービス化】

衛生用品機器・医療用部品市場

「国内No.1・世界No.2シェア」(当社調べ)
「新材料・新ユニットを展開」



おむつなどの衛生用品製造設備用部品
NTダイカッター

半導体・電子部品市場

「世界No.1シェア」(当社調べ)



ハードディスクドライブ (HDD) 用
磁気ヘッド基板

半導体製造装置
部品向け
受託加工

機械部品事業

電機部品事業

半導体・電子部品市場

半導体製造装置に用いられる
給電端子部品

衛生用品機器・医療用部品市場



医療用
タングステンワイヤー・ロープ

自動車部品市場



電装部品溶接用
抵抗溶接用電極



2027年3月期（2026年度） 第1四半期 業績概要

1. 今回発表のポイント

2027年3月期（2026年度）第1四半期決算の総括

- 第1四半期の業績は、前年同四半期比で大幅な増収増益。

経済環境

- 雇用・所得環境の改善や設備投資に支えられ、緩やかな回復基調で推移。
- 円安や原材料・エネルギー価格の高止まりによるコスト増に加え、金融市場の変動、米国の通商政策、中国景気の減速および中東情勢等の地政学リスクが高まっている。
- 先行きは依然として不透明な状況が続く中で推移。

ターゲット市場の概況

衛生用品機器・医療用部品市場	衛生用品機器市場：需要の一時はあったものの、新規案件の獲得等もあり、好調に推移。 医療用部品市場：需要が増加傾向の中で、為替の影響等もあり好調に推移。
半導体・電子部品市場	半導体市場の活況を受け、好調に推移。
自動車部品市場	需要増に対する供給対応等により、好調に推移。
産業用機器・部品市場	機械部品事業：需要増に対する供給対応等に努めたものの、一方で需要の後ろ倒し等もあり、伸び悩む中で推移。 電機部品事業：需要増および原材料価格に応じた商品価格の改定により、前年同四半期を大幅に上回りながら推移。

1. 今回発表のポイント

今後の見通し

- 当第1四半期は大幅な増収増益となった一方、先行きは不確実性が高い状況
- 売上高は、今後も供給対応に取り組みながら、一定の増収を見込む
- 損益面では、高騰した原材料の使用により売上原価の上昇を見込む

業績予想

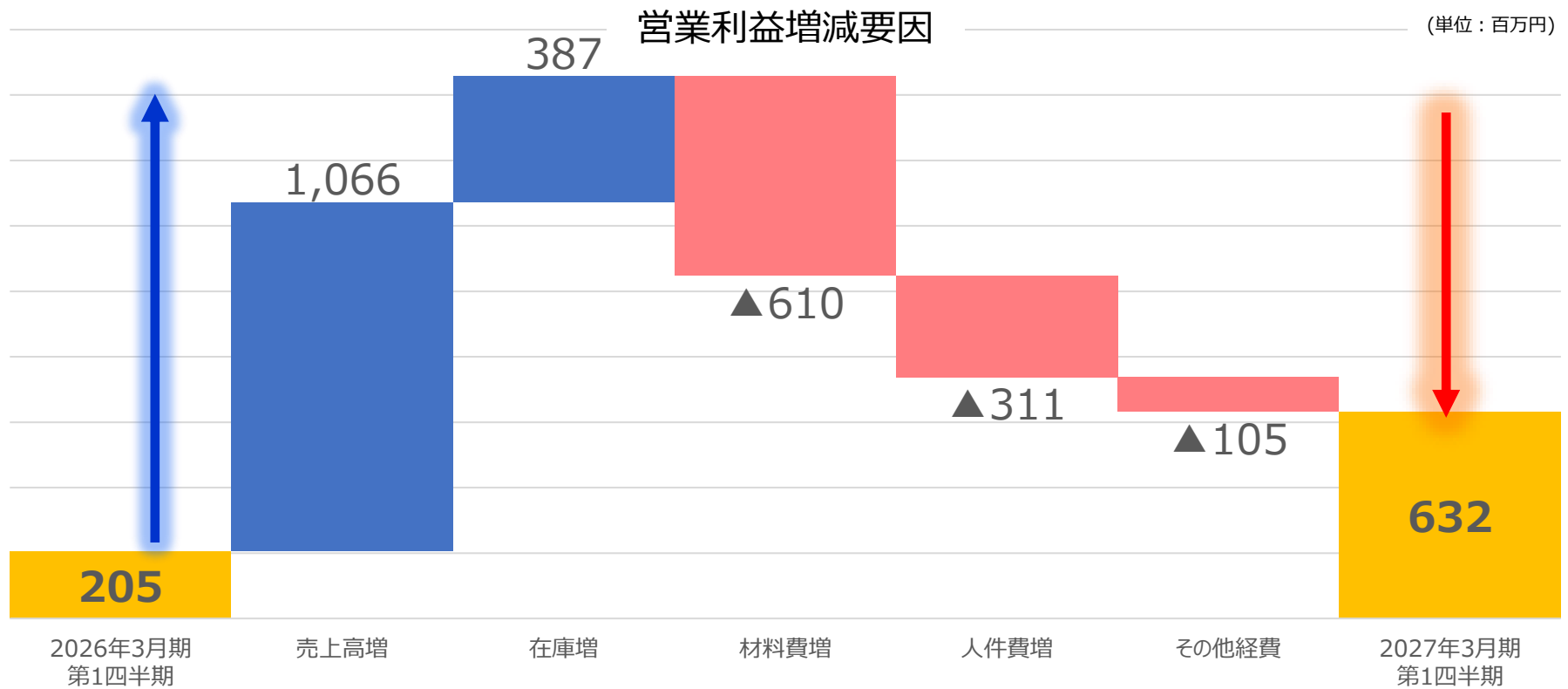
- 当第1四半期の連結業績は、第2四半期および通期の業績予想値から上方に乖離
- 直近の業績および受注動向を踏まえ、2027年3月期第2四半期の連結・個別業績予想を上方修正 
- 通期業績予想は現時点では据え置き
中国の輸出規制強化の継続に伴う原材料価格の動向が見通しにくく、収益性が見極めが困難なため
原材料価格等の動向を注視し、合理的な業績予測が可能となり次第、速やかに開示

配当予想

- 業績予想の修正を踏まえ、中間配当予想を1株当たり30円から60円へ上方修正 
- 期末配当予想は現時点では据え置き

2. 連結業績の概要

	2026年3月期 第1四半期	2027年3月期 第1四半期	(単位：百万円)	
			増減額	増減率 (%)
売上高	3,134	4,200	1,065	34.0
営業利益	205	632	426	207.5
経常利益	268	794	525	195.4
親会社株主に帰属する当期純利益	181	556	375	207.0



連結売上高

42億円
(前年同四半期比34.0%増)

- 中国の輸出規制強化を背景に、タングステン等の原材料価格高騰が前期後半から継続しており、収益性確保のため、顧客に対して商品価格の改定をお願いしている状況。
- 当社グループがターゲットとする市場が好調に推移したことに加え、原材料の流通が制限される中で中国以外の原材料調達に最大限努め需要に対応したこと等により、当第1四半期の連結売上高は前年同四半期を大幅に上回る中で推移し、増収。

営業利益

6億3千2百万円
(同 207.5%増)

- 売上高増加に加え、原材料価格の急騰以前に確保した原材料を使用し売上原価が抑えられたこと等により、売上総利益が大幅な増益を計上。

経常利益

7億9千4百万円
(同 195.4%増)

- 賃貸不動産収入等の安定した収益に加え、スクラップ価格の上昇による売却益の増加等により、増益。

親会社株主に 帰属する四半期純利益

5億5千6百万円
(同 207.0%増)

- 経常利益の増加等により、増益。

3. 主な経営指標

	2023年3月期 第1四半期	2024年3月期 第1四半期	2025年3月期 第1四半期	2026年3月期 第1四半期	2027年3月期 第1四半期
売上高営業利益率（%）	9.6	5.3	5.7	6.6	 15.1
自己資本四半期純利益率（ROE・%）	2.8	1.6	1.6	1.5	 4.2
総資産経常利益率（ROA・%）	2.6	1.5	1.6	1.5	 4.2
1株当り四半期純利益（円）	60.45	36.79	38.62	37.41	 114.58

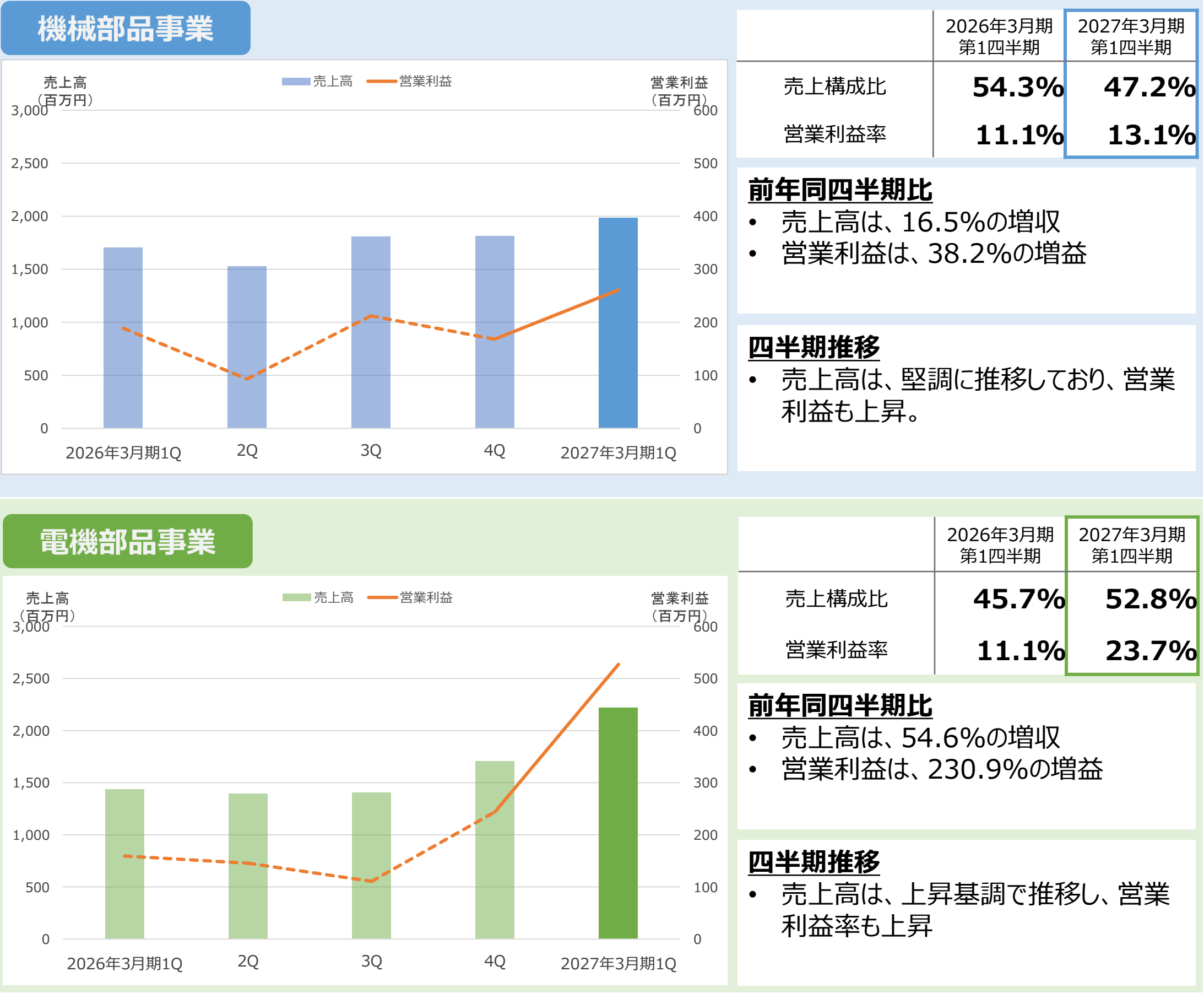
各利益が前年同四半期比で増益となったことにより、経営指標は上昇。

（注） 2024年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。2023年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益を算定しております。

4. セグメント別の状況

■ セグメント業績の概要

		2026年3月期 第1四半期	2027年3月期 第1四半期	対前年比 増減額 増減率 (%)	
(単位：百万円)					
機械部品事業	売上高	1,702	1,984	281	16.5
	営業利益	188	260	72	38.2
電機部品事業	売上高	1,436	2,219	783	54.6
	営業利益	159	527	367	230.9
調整額	売上高	△4	△3	0	—
	営業利益	△142	△155	△13	9.1
全社	売上高	3,134	4,200	1,065	34.0
	営業利益	205	632	426	207.5



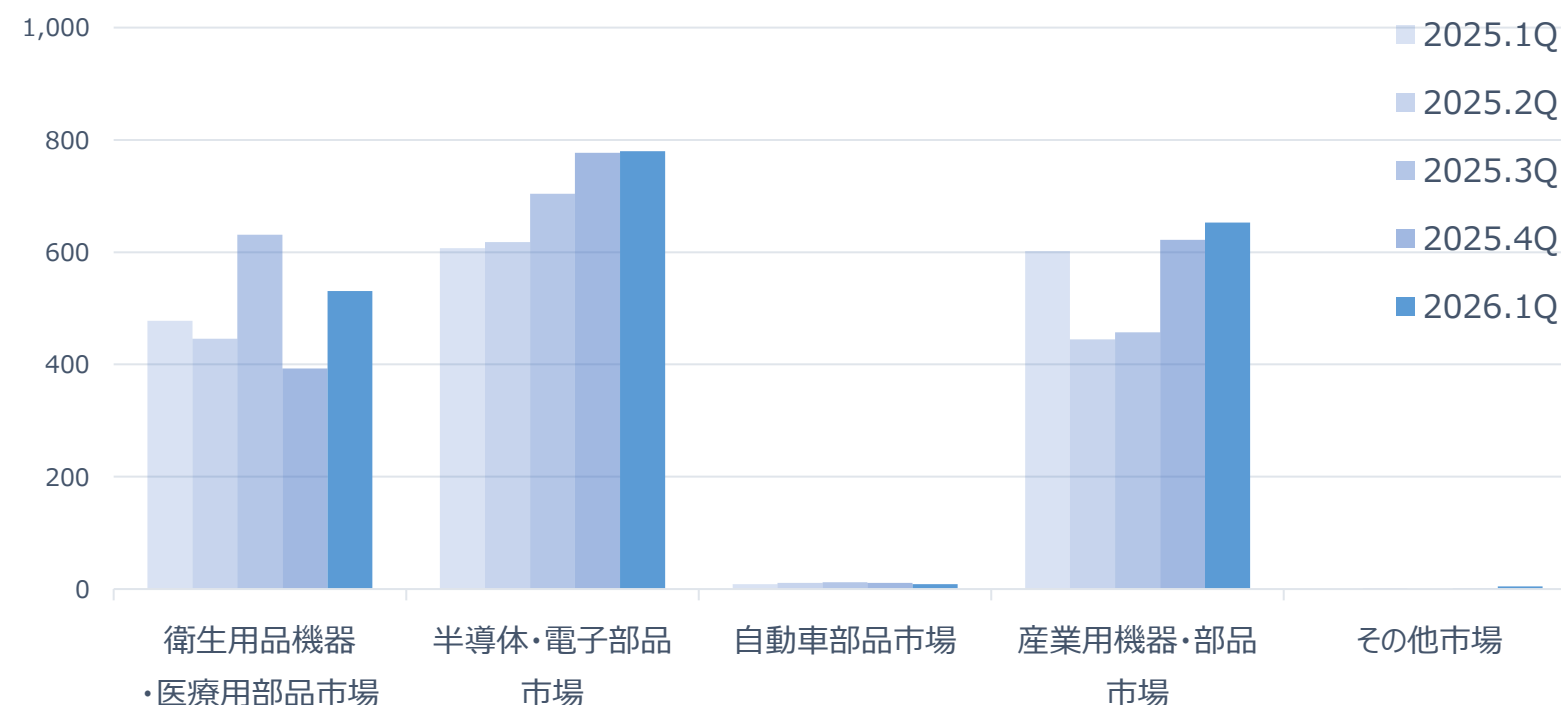


4. セグメント別の状況

機械部品事業

ターゲット市場別売上高の四半期推移

売上高(百万円)



NTダイカッター



HDD用磁気ヘッド基板



二軸混練押出機用の耐摩耗部品

ターゲット市場の主要な商品の状況 (前年同四半期比)

増収

衛生用品機器・
医療用部品市場

NTダイカッター（おむつなどの衛生用品製造設備の部品）

一部で需要の一服もあったものの、海外向けで新規受注があったこと等により、好調に推移

増収

半導体・電子部
品市場

ハードディスクドライブ（HDD）用磁気ヘッド基板
（情報機器関連部品）

データセンター等で使用される大容量HDDの需要増により好調に推移

半導体製造装置部品向け受託加工

活況な半導体市場の市況を受け、需要は増加傾向で推移

増収

産業用機器・
部品市場

製鉄所向けの耐摩耗部材

原材料の調達環境が厳しい中、供給対応に努めたことにより受注が増加する中で推移

二軸混練押出機用の耐摩耗部品

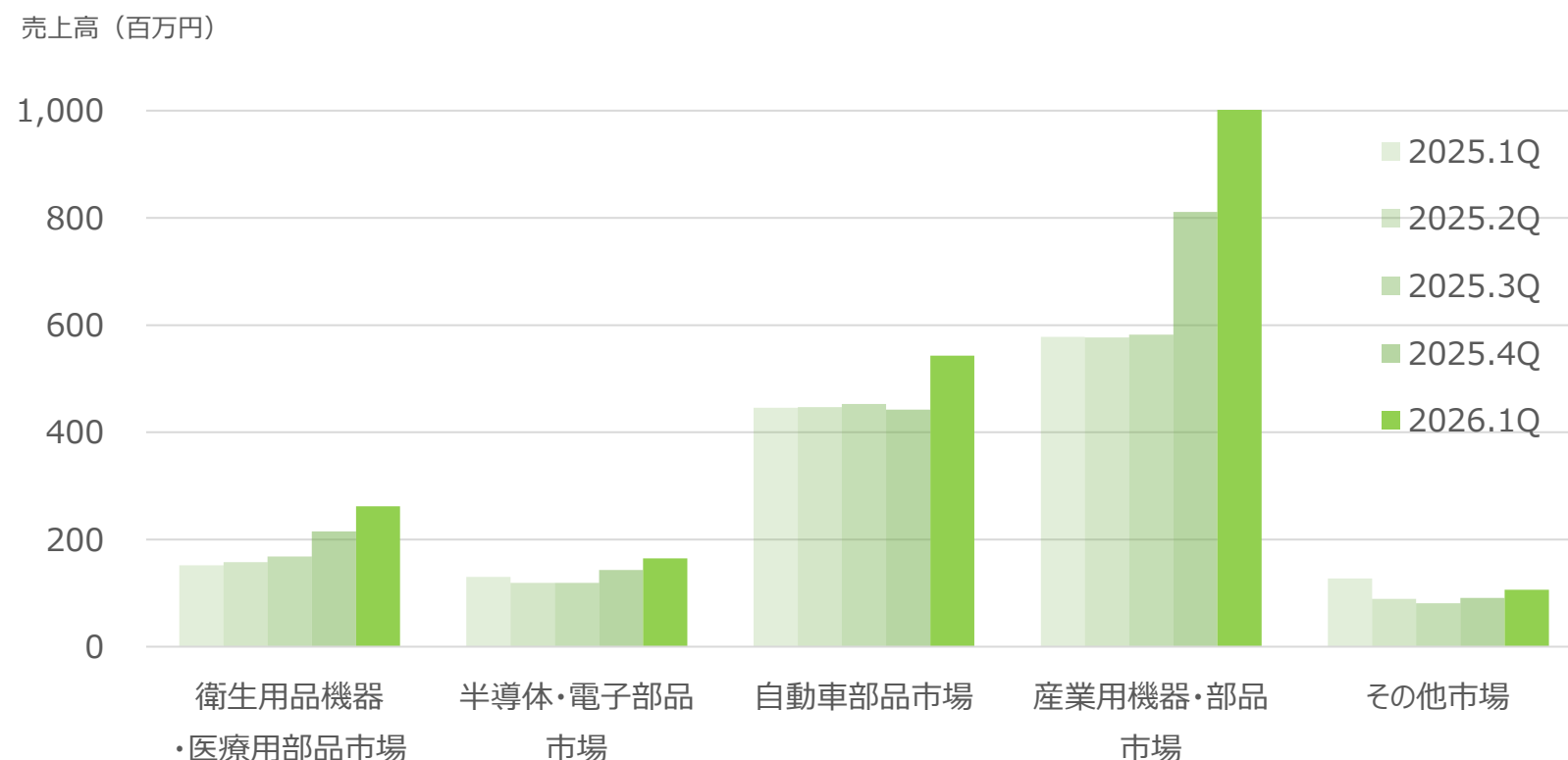
市場への参入を目指す二次電池製造用途向けの耐摩耗部品は、減速傾向にあるEV市場の影響を受け、需要が後ろ倒しとなっており、低調に推移

※売上高はセグメント間の取引を含んでおりません。

4. セグメント別の状況

電機部品事業

ターゲット市場別売上高の四半期推移



医療関連カテーテル用
タングステンワイヤー製品



抵抗溶接用電極



ブレーカー用
電気接点



各種製造装置用
プラズマ電極

※売上高はセグメント間の取引を含んでおりません。

ターゲット市場の主要な商品の状況 （前年同四半期比）

増収
衛生用品機器・
医療用部品市場

カテーテル用タングステンワイヤー製品（医療用関連部材）
北米地域向けでは需要増に加え、為替の影響等により、増加基調で推移したほか、他の地域向けも堅調に推移

増収
半導体・電子部
品市場

半導体製造装置に用いられる給電端子部品
活況な半導体製造装置の設備投資需要の中で、一部顧客での設計変更等による量産化の遅れから、前年同四半期を下回りながら推移

各種製造装置用プラズマ電極

データセンターにおけるAIサーバーの増産を背景に、需要が増加傾向で推移

増収
自動車部品市場

抵抗溶接用電極（電装部品溶接用）

自動車市場の電極需要の増加に伴い、前年同四半期を上回りながら推移

増収
産業用機器・
部品市場

ブレーカー用電気接点（産業用設備向け）

需要が大幅に増加したことに加え、原材料価格により増減する商品価格の改定を実施しており、前年同四半期を大幅に上回る中で推移

5. 財務の状況（連結）

	2026年3月期	2027年3月期 第1四半期	(単位：百万円) 対前年比 増減額
総資産	18,931	19,763	832
負債	5,587	5,867	280
純資産	13,343	13,896	552

主な経営指標

	2026年3月期	2027年3月期 第1四半期
自己資本比率（%）	70.4	70.3
1株当たり純資産（円）	2,745.22	2,853.96

	主な増加要因 (単位:百万円)	主な減少要因 (単位:百万円)
総資産 197億6千3百万円 (前連結会計年度末比8億3千2百万円増)	原材料及び貯蔵品 + 745 売掛金 + 592 電子記録債権 + 311	現金及び預金 △1,097
負債 58億6千7百万円 (同2億8千万円増)	流動負債その他 + 677	設備関係未払金 △ 300
純資産 138億9千6百万円 (同5億5千2百万円増)	利益剰余金 + 435 その他有価証券評価差額金 + 131	—

6. 今後の見通し

今後の見通し

- 当第1四半期は大幅な増収増益となった一方、先行きは不確実性が高い状況
- 売上高は、今後も供給対応に取り組みながら、一定の増収を見込む
- 損益面では、高騰した原材料の使用により売上原価の上昇を見込む

業績予想

- 当第1四半期の連結業績は、第2四半期および通期の業績予想値から上方に乖離
- 直近の業績および受注動向を踏まえ、**2027年3月期第2四半期の連結・個別業績予想を上方修正**
- 通期業績予想は現時点では据え置き**

中国の輸出規制強化の継続に伴う原材料価格の動向が見通しにくく、収益性が見極めが困難なため
原材料価格等の動向を注視し、合理的な業績予測が可能となり次第、速やかに開示

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

連結業績予想	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	
第2四半期(累計)	8,600	42.1	1,500	404.2	1,720	290.9	1,230	304.2	253.23
据え置き 通期	15,000	17.4	730	2.3	1,010	△10.9	720	165.9	148.23

配当予想

- 業績予想の修正を踏まえ、**中間配当予想を1株当たり30円から60円へ上方修正**
- 期末配当予想は現時点では据え置き**

	年間配当金			配当性向 (連結)
	中間	期末	合計	
2027年3月期 (予想)	60円	30円 据え置き	90円	60.7%



参考資料

1. 業績の推移（連結）

経営成績（連結）

（単位：百万円）

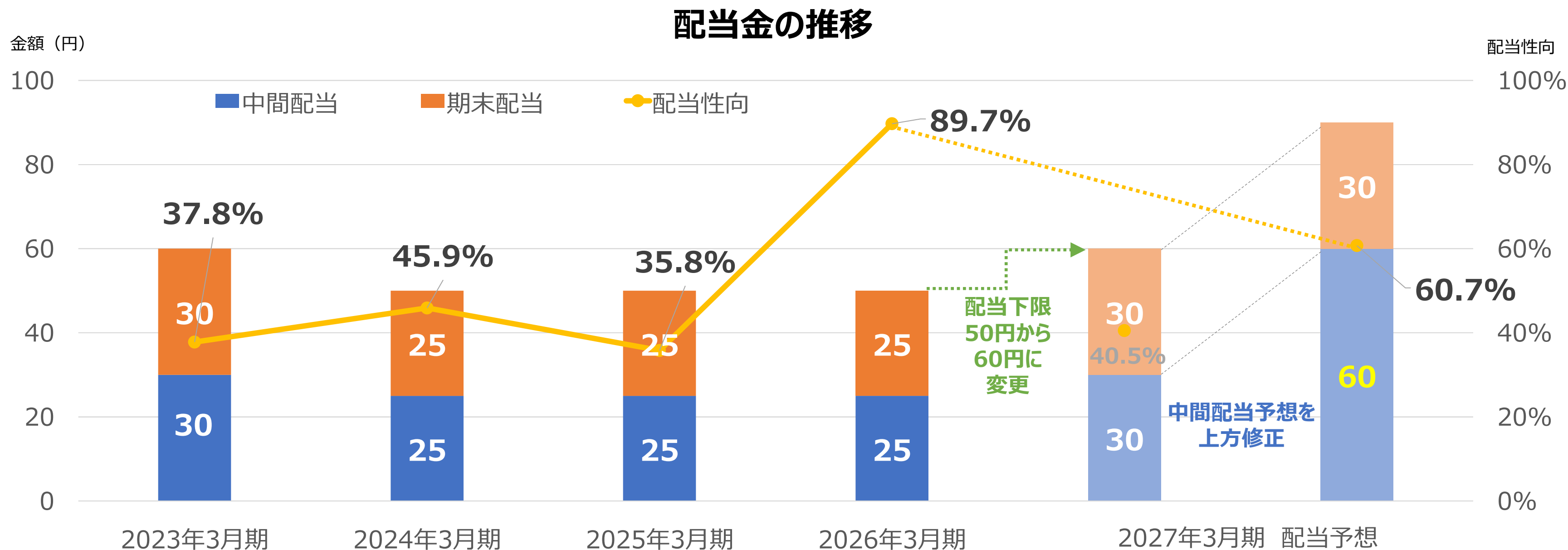
区分	2023年3月期 第1四半期	2024年3月期 第1四半期	2025年3月期 第1四半期	2026年3月期 第1四半期	2027年3月期 第1四半期
売上高	3,330	2,882	3,181	3,134	4,200
営業利益	320	151	180	205	632
経常利益	423	264	284	268	794
親会社株主に帰属する四半期純利益	291	177	187	181	556
純資産	10,945	11,425	12,268	12,565	13,896
総資産	17,105	17,341	17,587	17,762	19,763

経営指標（連結）

区分	2023年3月期 第1四半期	2024年3月期 第1四半期	2025年3月期 第1四半期	2026年3月期 第1四半期	2027年3月期 第1四半期
売上高営業利益率 (%)	9.6	5.3	5.7	6.6	15.1
自己資本比率 (%)	63.9	65.8	69.7	70.7	70.3
1株当たり純資産（BPS） (円)	2,264.84	2,360.19	2,530.87	2,588.80	2,853.96

2. 配当金の推移

- 株主の皆様へ当社の利益還元の姿勢をこれまで以上に明確にするため、2027年3月期より、配当性向を40%に引き上げ、また、年間の1株当たり配当金額に60円の下限を設定。今後も安定的・継続的な株主還元努める。
- 配当予想については、第2四半期累計期間の業績予想を上方に修正したことから、中間配当予想を30円から60円に上方修正。期末配当予想については、現時点では据え置き。



(注) 2024年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。2023年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、配当金額を算定しております。

本資料は情報提供を目的とするものであり、当社株式の購入や売却を勧誘するものではありません。

また、掲載されている情報は、現時点で入手可能な情報に基づき、当社が独自に予測したものであり、リスクや不確定な要素を含んでおります。

従いまして、見通しの達成を保証するものではありません。当社の内部要因や当社を取り巻く事業環境の変化等の外部要因が直接または間接的に当社の業績に影響を与え、本資料に記載した見通しが変わる可能性があることをご承知おきください。

投資に関する最終的な決定は、利用者ご自身の判断でなさるようお願いいたします。